



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158

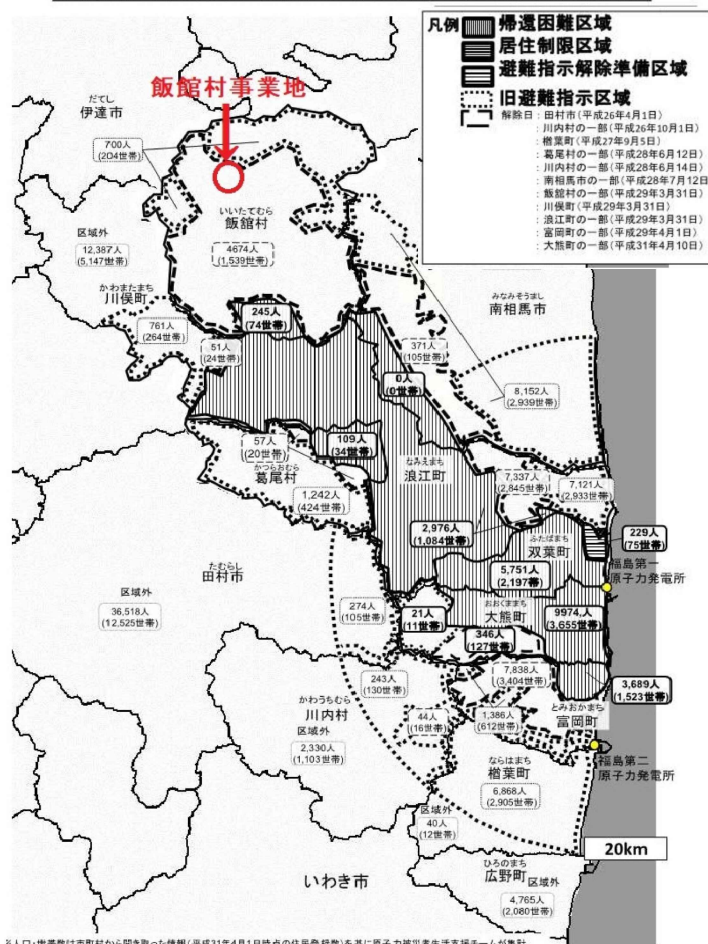
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



「鬼怒沼」(栃木県日光市)  
 (撮影：関東森林管理局 日光森林管理署)

◎ 「福島 <small>の</small> 森林・林業の復興・創生に向けて」 ～実証事業「飯舘村事業地」～	森林整備課・・・2
◎ 民有林所有者等と連携した協調出荷の推進等について ～システム販売と生産性向上の取組～	資源活用課・・・5
◎ 小笠原 <small>の</small> 豊かな自然を後世に残すために ～島民参加による千尋岩 <small>ちひろいわ</small> ルートボランティア～	小笠原諸島森林生態系保全センター・・・6
◎ ガールスカウトの森	千葉森林管理事務所・・・7
◎ 森づくり最前線 日光森林管理署 日光森林事務所 首席森林官 鶴田直人・・・8	

### 避難指示区域の概念図(平成31年4月10日時点)



### 飯館事業地位置図

(経済産業省HP 避難指示区域概念図を使用)



飯館事業地周辺の衛星写真(Google Earth)

**「福島」の森林・林業の復興・創生に向けて**  
 実証事業「飯館村事業地」  
 森林整備課

東京電力福島第一原子力発電所事故から8年が経過し、福島県では避難指示が解除された区域が広がってきています。

避難指示解除後の地域における森林・林業の再生に向け、関東森林管理局では、放射性物質の流出・拡散防止対策、作業者の被ばく低減対策等の具体的な手法や効果の検証、事業実

施に必要な歩掛かりの把握等を目的とする実証事業に取り組んでいます。

平成30年度は、4市町村(南相馬市、楢葉町、飯館村、田村市)内の国有林において実証事業を実施しましたが、その中で、特に一般の方々に身近な位置にある飯館村の事業地について紹介します。

### 【飯館村事業地の立地について】

この事業地は、飯館村深谷地区の「村民の森あいの沢」の近隣に位置しています。「村民の森あいの沢」は、ため池を中心としたキャンプ場や宿泊体験館、テニスコート等があり、震災前には人々の憩いの場として大いに賑わっていました。原発事故後、避難指示の区域となり、平成29年3月31日に避難指示が解除されましたが、現在はまだ宿泊体験館のみ利用可能となっています。

### 【景観への配慮を目的とした間伐】

事業地は、「ふれあいロード」と呼ばれる道路に接していることから、道路際の鬱蒼と繁茂した灌木類を処理し、「ふれあいロード」の通行者から林内が見渡せるようにしました。また、林内の樹勢や成長の良くない木を中心に、全体の立木配置状況を加味しながら間伐をする木を選木することにより、写真のとおり、景観に配慮し整理とした明るい林分に仕上げました。

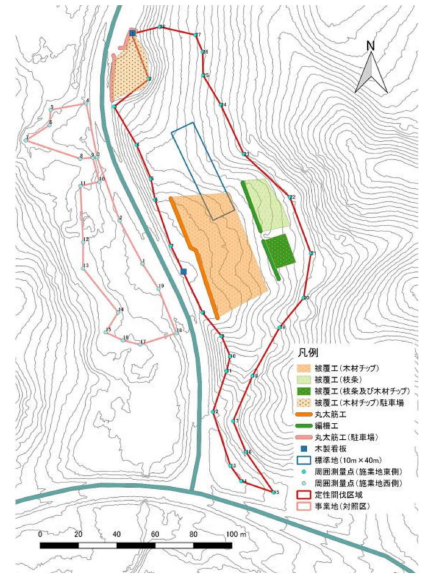
また、事業対象面積が小規模(0.77ha)であったことから、比較的面積規模の大きな間伐作業で使用するク拉斯の高性能林業機械は使用せず、小型重機を使用しましたが、人力作業のみの場合と比較して、作業従事者の外部被ばく線量を約30%低減することができました。



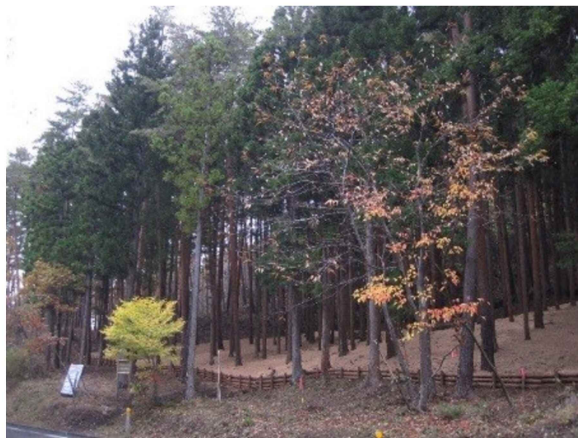
移動式チップー



小型グラブブル



事業実施内容一覧図



【被覆工等による空間線量率の低減等】

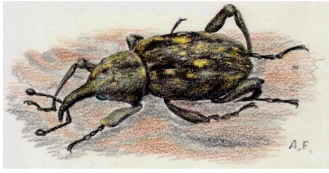
林内からの土砂等の流出抑制、雨滴等による浸食防止、土壌中の放射性物質からの放射線を遮蔽することによる空間線量率の低減を目的として、木材チップのみのもの、枝条のみのもの、木材チップと枝条を組合せたものを、それぞれ林内に敷きました。

なお、これらの木材チップ及び枝条は、間伐により発生した丸太等から作製・選別したものを使用しています。

これらにより、木材チップのみの区域で約12%、枝条のみの区域で約8%、木材チップと枝条を組み合わせた区域で約18%と、それぞれ空間線量率が減少しました。

また、間伐実施箇所からの土砂等の流出防止を目的として、道路側林縁付近に丸太筋工を、木材チップ等の被覆材の流出防止及び斜面を流れる雨水を分散させることによる林床土砂等の流出防止を目的として、山側林縁付近に編柵工を、それぞれ施工しました。

なお、丸太筋工、編柵工とも、資材は間伐により発生した丸太等を利用しています。



オオゾウムシ(大象虫)  
約2cm. ゾウの鼻のよう長い口吻を持つ。  
針と刺の長い程硬丈だが驚くと死んぞつをする。



事業説明用看板

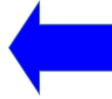
福島は今、復興・創生の新たなステージを迎えています。  
関東森林管理局も、今回紹介した本実証事業をはじめ、様々な取組を通じて福島の森林・林業の再生に資するよう邁進して参りますので、御理解・御支援のほど、よろしくお願ひします。



丸太筋工施工後



丸太筋工施工中



編柵工施工後



編柵工施工中



今月の表紙

「鬼怒沼」

(栃木県日光市)

標高約2000mにある高層湿原群。  
初夏には、ワタスゲやタテヤマリンドウ、ミズバショウ等、高山・湿原特有の多くの植物種を見ることが出来ます。  
初夏の現地は、爽やかな風が吹き、瑞々しい緑・青く澄んだ空美しい湿原といった「天空の楽園」という表現がぴったりな場所です。秋には草紅葉を楽しむことができます。  
自然散策を楽しむことができる場所である一方、保護林や国立公園の特別保護地区に指定され、自然保護上重要な場所でもあります。

# 民有林所有者等と連携した協調出荷の推進等について システム販売と生産性向上の取組

資源活用課

## 【民有林所有者等と連携した協調出荷の推進】

関東森林管理局では、民有林における施業の集約化、未利用材等の有効利用を通じた民有林所有者への還元拡大を推進するため、製材工場等の木材需給者との協定を締結し、民有林所有者等と連携して木材需要者へ民有林材と国有林材を併せて安定供給を行う「民国連携システム販売」を行っています。



トラックによる材の運搬

## 【今年度の民国連携システム販売】

今年度の「民国連携システム販売」では、民有林所有者等の中には昨年度の2倍の数量を出材された参加者もあり、民有林材の出材数量については、昨年度の約5千5百m<sup>3</sup>から、約9千2百m<sup>3</sup>に大きく増加しました。国有林と連携した民有林関係者からは、今まで販売できなかった未利用間伐材の販売や新規の需要者への販売が可能となったなど好評の声が寄せられています。

## 【生産性向上実践担当者会議の開催】

木材生産における生産性の向上は、「意欲と能力のある林業経営者※」の育成を図る上で極めて重要な取組であり、関東森林管理局においては、平成28年度から国有林が発注する素材生産請負事業における生産性の向上に取り組んでいます。

昨年度は、全ての素材生産請負事業において配布した日報分析支援ツールに作業者毎、作業種毎の作業量・時間を記録していただき、工程分析等による工程管理の手法の定着を図りました。また、工程分析により洗



プロセッサによる造材

い出されたポトルネットクの改善策等を検討するため、地域の林業関係者等の参加を得て現地検討会を開催するなど、各署等において実践的な取組を行ってきたところです。

これらの取組を加速化させるため、4月18、19日に関東森林管理局において、各森林管理署等の担当者50名を集め、生産性向上実践担当者会議を開催しました。

会議では、宇都宮大学農学部森林科学科森林工学研究室の有賀准教授から「作業システムの生産性とコスト」と題した特別講義を実施していただき、生産性向上に関する最新の知見を学びました。



フォワーダによる集運材

また、昨年度各署等において実施した生産性向上の取組の中で優良な取組であった会津署と白河支署の事例を発表していただき、検討会開催の意義や方向性の共有を図るとともに、前述の日報分析支援ツールの入力体験を実施するなど、実践的な会議となりました。

今後、各署等において素材生産請負事業の最盛期を迎えることから、各請負事業者の協力の下、当会議に参加した担当者等が中心となり、地域一体となった取組を展開し、更なる生産性の向上を目指していきます。

※林業経営の集積・集約化の受け皿となりうる林業経営体

# 小笠原の豊かな自然を後世に残すために 島民参加による千尋岩ルートボランティア

小笠原諸島森林生態系保全センター



小笠原諸島には、貴重な野生動物が生息・生育していますが、過去に移入等された外来種がその分布域を拡大し、小笠原固有の生態系に影響を及ぼしています。

小笠原諸島の国有林では、外来樹種の薬剤注入や伐採、稚幼樹採取等の駆除を行っています。その中で多くのボランティアの方に協力をいただいています。



千尋岩（ハートロック）

今回は4月20日に行われた、千尋ルートボランティアについて紹介します。

千尋ルートは、人気スポットの千尋岩（ハートロック）へ至るルートとして、父島でも、利用者数の多いルートです。今回は、ルート沿いに繁茂してしまった外来種草本の駆除作業を種子が拡散しないように注意して行いました。今回集まっていたのは、募集



作業開始：シュロガヤツリ群生

人数20人に対し、満員御礼の20人の村民の方々。

まずは、ルートの入り口に群生しているシュロガヤツリ等を全員で駆除。その後、自らの体についた外来種の種子等を除去してから、ルートの作業へと入っていきます。

往路では、駆除対象の外来種を説明しながら、緩やかな登り道を進んでいきます。

途中で小笠原村の職員から、近自然工法というルートの修繕方法の説明がありました。自然の材料を使用し、自然に溶け込ませる工法に、説明されるまで修繕後である事に気づかなかつた参加者も多かつたようです。復路ではホナガソウ・セイロンベンケイソウ・デリス・オオバナノセンダングサ等の外来種を抜き取ります。花芽



駆除対象の外来種

や種子は摘み取り、大袋へ入れて持ち帰り、葉茎・根は再生できない様に乾いた岩の上などに存置します。

2、3時間に及ぶ作業の末、集まった外来種は大袋20袋ほど。軽バン1台に収まらないほどの量になりました。

小笠原諸島森林生態系保全センターでは、外来樹木であるアカギの駆除等の、事業的な外来木本の駆除も行っています。ルートの周囲の外来草本の駆除についても、こうしたボランティアの皆様の協力をいただきながら行っています。

こうした努力の結果、少しずつですが固有森林生態系が回復してきています。世界自然遺産にも登録されたこの小笠原の素晴らしい自然を後世に残すため、今後も邁進してまいります。



作業終了！！

# ガールスカウトの森

千葉森林管理事務所

令和元年6月9日(日)、木更津市の高塚国有林において、「天皇陛下御在位30年記念」及び「天皇陛下御即位記念」の慶祝行事の一環として、「ガールスカウトの森成林記念の植樹イベント」が開催されました。

ガールスカウト千葉市協議会と千葉森林管理事務所は、平成13年1月に「国民参加の森林づくり協定」を締結し、地拵、植付から下刈・除伐作業などの森林づくりをガールスカウトのメンバーが毎年実施し、令和

元年現在、19年生のスギ、広葉樹から成る美しい森林をつくりあげました。

今回、その功績に対し、林野庁長官から「国民参加の森林づくり推進功労者表彰」が授与されたことから、記念式典において、前田所長からガールスカウト協議会会長へ感謝状の授与が行われ、木製の立派な感謝状を見たガールスカウトの皆さんからは、大きな歓声が挙がりました。

当日は、ガールスカウト千葉市協議会の歴代会長やOGを含め、130名のメンバーが参加しました。千葉所職員の指導のもと、成林した記念として、皇族の方のお印の樹木

や千葉県と木更津市の木の植樹、さらに記念標柱の設置をグループ分けされたガールスカウトのメンバーが分担して実施しました。先輩方のご苦勞に思いをはせながら、樹木の生長を願った一日でした。



頑張って穴を掘るよー



大きな白樺も植えました



皇族お印の樹木 シラカバ・アズサ  
千葉県 マキ  
千葉市 ケヤキ  
木更津市 ツバキなど

# 森づくり最前線

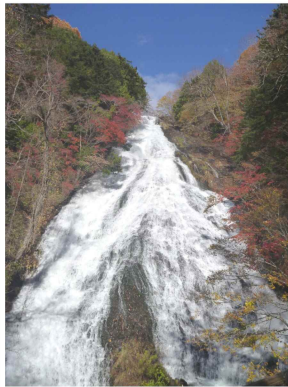
日光森林管理署

日光森林事務所

首席森林官 鶴田 直人



小田代湿原



湯滝

日光市は、平成18年3月に2市2町1村が合併し、栃木県北西部の広範にわたる日本で3番目の面積を持つ自治体です。私の勤務する日光森林事務所は、合併前の旧日光市のエリア、日光担当区約4、200ha、奥日光担当区約9、700ha、官行造林約50haを管轄しています。霊峰男体山・女峰山の麓、大半が保安林や国立公園に指定されています。



男体山・中禅寺湖(半月山展望台より)



カラマツ林床に咲くアカヤシオ

いには天然記念物の「日光杉並木」が残る、歴史のある街です。奥日光は高地にあり冷涼な気候から、明治時代には大使館や外国人の別荘が建ち並び国際避暑地として賑わった歴史を持ち、また戦場ヶ原や中禅寺湖、華厳の滝をはじめ数々の名瀑、季節毎の花々等、風光明媚なスポットが広がり、多くの観光客が訪れます。奥日光へ向かう「いろは坂」は紅葉や渋滞で有名で、特に秋のシーズンは時間帯によつては現場出張も難儀するほどです。現場巡視の中で、索道や石積の跡といった遺構を発見することもあり、古くからの観光地ならではの開発の歴史を垣間見ることがもできます。



生分解性テープを設置したカラマツ林

このような土地柄、森林事務所の業務は国有林野の貸付に伴う用務が多くを占め、またカラマツを主体とした造林地での生産事業も行っています。さらに当地は、シカやクマによる樹皮剥ぎの被害も多く見られることから、その対策として、木の幹に生分解性テープ等の巻き付けや保護林でのシカ進入防止柵の修繕をしています。シカ対策として

は関係機関が連携し、湿原の保全やシカの捕獲等を行うほか、近年は日光国立公園の魅力向上に向けた再整備が進んでおり、森林管理署もこれらの取り組みに協力しています。土地管理者として景観や森林を守り良い形で引き継いで行くことが重要であると考え、日々業務に当たっています。



シカ柵修繕作業

このほか、小倉山国有林では日本野鳥の会栃木県支部と協定を結び、生物多様性に配慮した施業のほか、年に2回森林と野鳥に親しむふれあいイベントを行っています。森林と野鳥の関わりについて気付いたり再確認することの多い場となっています。

発行所 関東森林管理局  
編集総務課  
TEL(027)210-1158  
FAX(027)230-1303